



表紙のART

WEB



卒業プライズを受賞した『踊る身体』

7 作品選ばれた〈卒業プライズ 2007〉の中でも特に高評価を得たのがこの『踊る身体』。環境デザイン学科の花野明奈さんの作品です。その土地固有の動きに合った建築物を建てることです。土地を受け継いでいく。新たなカタチを提案しています。赤い曲線は身体の動きを表し、白線はユニット、四角は庭。模型の中では、昔住んでいたおばあちゃんと現代の家族が時空を越えて共存しています。確固たるテーマに基づく手作り感あふれる設計模型にたくさんの人々が見入っていました。

「g*g」とは？

芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」はスバリ芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持った人々のことを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き！ このデザインかっこいい！ 景観がきれい！ こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民です。そんな芸術市民のみなさんと芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。

東北芸術工科大学

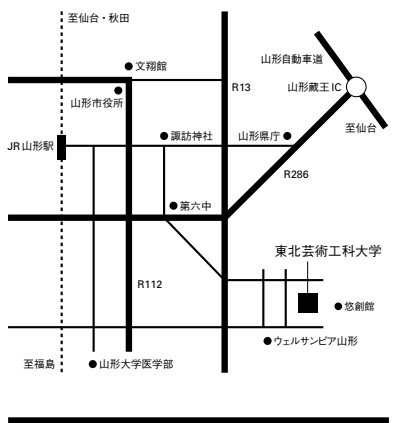
◎芸術学部
美術史・文化財保存修復学科
歴史遺産学科
美術科【日本画／洋画（洋画・版画）／彫刻／工芸（陶芸・漆芸・金工・テキスタイル）】

◎デザイン工学部
プロダクトデザイン学科
建築・環境デザイン学科
情報デザイン学科【グラフィックデザイン／映像】
メディア・コンテンツデザイン学科

◎大学院芸術工学研究科
博士後期課程 芸術工学専攻
修士課程【芸術文化専攻／デザイン工学専攻／デザイン工学専攻 仙台スクール】

◎研究機関
総合研究センター／東北文化研究センター／文化財保存修復研究センター／こども芸術教育研究センター／デザイン哲学研究所／東アジア芸術文化研究所／社会芸術総合研究所

ACCESS



東北芸術工科大学広報誌 g*g

2008 年 4 月 10 日発行
発行：学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形市上楡田3-4-5
東北芸術工科大学広報担当
TEL：023-627-2000 FAX：023-627-2185
WEB：www.tuad.ac.jp/
E-mail：hello-gg@aga.tuad.ac.jp

Design：Creative Room J1
Printing：Tamiya Printing co.,ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2008

TUAD IS HERE

日常の中の芸工大

食育絵本「べこべこべろり」 WEB

おかあさんが小さな子どもに読み聞かせしてあげているのは、絵本「べこべこべろり」。食育の推進を目的に山形県が制作した絵本。グラフィックデザインコースの坂東准教授とともにそのデザインを手掛けたのが、芸工大 OG でイラストレーターと多田さん。やさしいタッチのイラストとリズムミカルな文庫で、読み聞かせにぴったりの絵本と好評だ。教科書やパンフレット、企業キャラクターなど、自在にタッチを描きかける多田さんだが、「絵本づくりがいちばん好き」と目を輝かせた。

多田和絵 Tada Kazue
山形県出身。2003 年環境情報デザイン学科グラフィックデザインコース卒業。在学中から絵本づくりに携わるチャンスにも恵まれ、フリーのイラストレーターに。昨年からは芸工大の非常勤講師も務めている。



TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN | GRADUATION RESEARCH & PROJECT EXHIBIT

東北芸術工科大学 卒業／修了研究・制作展

進化する卒展、終わりになきアート。

学生生活を締めくくる渾身の作品、研究を一堂に公開する「卒業／修了研究・制作展」が、今年もキャンパス全体を会場として開催された。多彩な展示やプレゼンテーション、各種イベントが繰り広げられ、卒業・修了生も、送り出す在学生も、そして訪れた人々も、みんな楽しんだり、驚いたり、感心したり……。感動のうちに幕を閉じ、燃焼しきった8日間となった。

去る2月10日から17日まで、東北芸術工科大学では第13回〈卒業／修了研究・制作展〉を開催しました。美術作品、デザイン提案、研究報告など広い会場に展示したのは約400点にも及びます。キャンパス全体を会場として、自分たちが学んだ場所も含めて公開するオープンアトリイ形式とした今年のテーマは「一体感」。「蜘蛛の巣」「蜂の巣」「鳥の巣」をアイコンにし、独立した展示棟が学部学科を越えて一つに結びました。今回新たに設けられたインフォメーションボックス「HONEY・COME」には人々が集い、在学生のボランティア組織「卒展ディレクターズ」の的確な会場案内でスムーズに目的地へ。大学で磨き習得した知識や感性の集大成であると同時に、卒業を迎え、社会でそれらを活かしていくためのマイルストーンでもある卒展。作品越しに一人ひとりの変化や成長を感じとれたのではないのでしょうか。ここでは、各学科の最優秀賞や優秀賞に輝いた3人に注目。実社会という新天地に向けて旅立つ者、さらなる探究の思いに駆られて大学院へと進学する者、卒展で得られた充実感や感動、自信を胸に、だれもが新しいステージへ進みます。

1:生産デザイン学科（現:プロダクトデザイン学科）の学生一人ひとりの集大成がブース展示された体育館。多彩な発想力と感性が来場者を魅了した。2:環境デザイン学科（現:建築・環境デザイン学科）の優秀賞を受賞した畠山佳久さんの住まいのデザイン「木と生きる集合住宅」に見入る地元中学生。3:情報デザイン学科グラフィックデザインコースの展示風景。4:構内3カ所に設けられたインフォメーションボックス「HONEY・COME」。5:美術科洋画コースの展示。6:美術科工芸コースの優秀賞作品、牧野広さんの「[仁族]」を眺める親子。7:情報デザイン学科映像コースの展示。

「作品と離れるのは寂しいけど、また会いに行きます」
工藤美穂（美術史・文化財保存修復学科／宮城野高校出身）

「美術品の修復を手掛けるにはこしかない」と、迷わず芸工大への進学を決めた工藤さん。でも、本格的に修復が楽しくなったのは美術品に触れられるようになった3年次から。工藤さんが卒業研究として修復に取り組んだ栃木県美術館所蔵の「限定と無限定」（古郷秀一作）は、屋外展示だったこともありサビだらけでした。自ら志願したものの、怖くて触れずにじっと作品を見つめるだけの日々。見かねた先生に

背中を押されて修復開始。作家への聞き取り調査をし、所蔵美術館の要望を聞き、塗装業の父親にアドバイスを求め、溶接の免許を取り、あらゆる手段を駆使して修復にあたりました。「毎朝、作品におはようさんって声を掛けていたんです」。日増しに募る作品への愛着。修復を終えた作品とは美術館での再会を誓って送り出しました。今後は、大学院でより修復技術を高め、修復への理解を広めていく考えです。



「古郷秀一作「限定と無限定」の保存修復」



骨組にもいろいろなパターンがあり、視覚的にも触感としても形状の変化を楽しむことができ、子どもたちにも大人にも好評でした。



工藤さんが溶接の免許まで取って修復を手掛けた作品。サビがなくなり、チョコレートのような質感が見事に甦りました。



『Metamorphosis ～流体伝導による形状変化の研究～』

「色を抑えて質感や量感にこだわる、それが今の私」
富士洋子（美術科洋画コース／上山明新館高校出身）

高校時代は山岳部。自然派の富士さんが芸工大を選んだのは、「都会と田舎が混在する、他の大学とはまったく違う雰囲気を感じた」から。油絵に対してそれほど強い思い入れもなかったという入学当初。ところが、先生の指導や周囲からの刺激を受けるうちに絵を描くことがどんどん楽しくなっていったというのです。卒業制作は「[川ん]」「[山ぞ]」「[間]」の3点で、優秀賞に輝いたのは「[山ぞ]」。かつて見た山の

残像をドットで表現した力強い作品です。炭酸カルシウムや乾性油などを使って化学反応を誘発し、見事な質感、量感を生み出し、布なのに鉄のような存在感を出すことに成功しています。卒業後は大学で火がついた描くことへの執念深さを胸に大学院へ。「今は油絵、でも、今後は立体にいく可能性も……」。手法や技法面での方向転換はあるにしても、富士さんは感性の赴くままに表現し続けることでしょ



左:「[川ん]」／右:「[山ぞ]」



布なのに鉄の赤錆のような質感に。ドットは一つ一つライターで焼いたもの。このなんとも言えないマチエールが富士さんの真骨頂。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN | GRADUATION RESEARCH & PROJECT EXHIBIT



卒業開催記念パネルディスカッション 社会には、芸術を必要とする 場所が沢山ある。

卒業最終日前日2月16日には、今年度最後にして最大の講義ともなった〈卒業開催記念パネルディスカッション〉を開催しました。前半は、卒業作品の総評と卒業プライズを発表。ゲストパネリストの後藤繁雄氏（編集者／京都造形芸術大学教授）、酒井忠康氏（世田谷美術館館長）、そして本学の宮島達男副学長と赤坂憲雄教授が事前に会場を回り、ノミネート作品の中から数点ずつセレクトしながら、協議の上で〈卒業プライズ2007〉7点を決定。2007年度の卒業展の総評として、「他のどの芸大とも似ていないおもしろいスタイルを持っている」「賞味期限を気にしすぎておもしろみに欠ける」「プレゼンテーション能力が向上している」など鋭い感想が語られた後に、個々の気になった作品や卒業プライズ作品についての解説が行われました。

を務める「社会芸術総合研究所」が存在することや、芸術・デザイン系の他、歴史遺産や保存修復分野が協調して存在する点が芸工大の強みであるとの声もありました。また、「肘折温泉（灯籠）プロジェクト」をきっかけに、ある学生の絵に惚れ込んだ旅館主からギャラリーを提供したいと申し出があったという事例も紹介され、きっかけづくりの重要性にも言及。そして最後に、「どんな作家、人間を応援したいか」という宮島副学長の質問に、秋元氏は「ジャンケンが強い人!」と即答。その言葉の意味するところは、「自分で運を持っている人」、「何の根拠もない自信を持っている人」だそうです。秋元氏VS会場の人々による大ジャンケン大会で幕を閉じたパネルディスカッションでは、生き方のヒントをたくさんいただきました。



2.10sun



東北の雪景色を背景に、今年の卒業展もいよいよ始まりました。オープニングの式典では、卒業生、修了生、在学生、教員、職員を合わせた総勢90名ほどが本館1階に集まり、来賓のみなさんを招いてのテープカットを行いました。

2.11mon



連日開催したカフェ@ラボ（全11回）では、各学科・コースで様々なゲストを招き、教員がナビゲーターとなって卒業制作について語りました（写真：左）。プロフェッショナルな視点から練り出される話は、作家として生きる覚悟とは何かを学生たちに伝えました。また、論文の口頭研究発表会では、卒業展にむけた1年間の研究成果を発表しました（写真：右）。専門的で少し難しい内容を一般の方にも理解して楽しんでいただけるよう、実物展示やパネル展示に工夫をしました。

2.12tue



学科・コースごとに行う講評会は、作品を前に作者が説明を行い、教員が講評を行います。学生達のこれまでの制作過程を見つけたからこそその辛口のコメントには、社会に出ていく学生達の後ろ姿を親身に見送る愛情がありました。



The 8 days !

より多くの方に卒業展を楽しんでもらえるよう、今年は会期を8日間に延長。雪の降り積もる中、多くの来場者が訪れました。その様子を卒業展を支えたディレクターズが紹介します。



2.13wed



学科・コースのそれぞれの展示会場で、3日間にわたり卒業展カタログに掲載する卒業写真を撮影しました。早朝にも関わらず笑顔で集合する彼ら。今後は散り散りになる寂しさを感じながら「今」を大切にしている様子にじんとききました。

2.14thu



卒業ディレクターズのインタビューがすべての卒業生・修了生にインタビューを行うクリエイターズマイクは、卒業展における名物イベントの1つです。各展示会場の作品の前で制作への思いを1週間を通じてリレー式で語りました。

2.15fri



卒業展のコンセプト「巣」から「蜂の巣（Honeycomb）」をイメージし、「ハニカム（Honey Come Information Box）」と銘打った案内ブース（写真：左）では、スタッフが暖かいハチマツメンをお配りしていました。このかわいらしいイメージの連鎖から生まれたサービスは、寒い中おこしいただいたみなさんにホットー思いついたアイデアのものとなったようです。また、お客様からのアンケート（蜂の巣型にディレクターズが1枚1枚切り切りました）も掲示し、作り手と見手が行き来する空間となりました。お客様の声を一部WEBでも紹介しています（写真：右）。



2.16sat



最終日間近となり、どの展示会場もたくさんのお客様がご覧になっていました。その中を外部ゲストが縫い進むように「卒業プライズ」の審査を行い、また、夕方からの卒業特別企画「卒業パネルディスカッション」にて発表を行いました（写真：左）。また、こども芸術大学内では、卒業生が1年をかけてワークショップで学んだ伝統芸能猿楽「変わり猿」を上演し、その成果を発表しました（写真：右）。

2.17sun



最終日。昨夜の高揚感を運わせながら校内を行き来する学生は、少し名残惜しそう。締めくくりの式典では、卒業生・修了生の各代表と、ディレクターズが卒業への思いを語りました。皆で創り上げた卒業最後の風景に、松本学長と赤坂大学院長も感慨深げ。式典後は大学前の広場で綱引きをし、卒業後に向けて全員で気合いを入れ直しました。（文：樋口雅子／卒業ディレクターズWEB・カタログ編集ナビゲーター）

詳しくは、『卒業公式サイト』のブログでも紹介しています。http://gs.tuad.ac.jp/gw2007/

卒業展は、美術誌・デザイン誌の編集者の目にはどのように映ったのか？



株式会社アックス
「AXIS」編集長 石橋勝利さん

「一本気!」。東北芸術工科大学を訪れるたびに、浮か言言葉です。卒業展も、やはり一本気!でした。最近、企業やコンベンなどの取材で、相手や入賞者が実はこの出身だったりすることも多く、東北芸術工科大学の名前をよく耳にします。東北芸術工科大学らしさが滲み出始めたと言いたい。その「らしさ」こそが、私の感じる「一本気!」。ゴチャゴチャした東京から離れた山形で鋭気を養ってきた成果でしょうか。卒業生の皆さん、これから一本気で頑張ってください。



株式会社 美術出版社
「美術手帳」副編集長 岩淵貞哉さん

すっぱり雪に覆われた西蔵王の麓に現れた大学の校舎は初めての者には感動的でした。外の静寂とは裏腹に、大勢の人々が活気に満ちた学内。全学あげての多様な卒業・修了作品群は見応えがありました。一番感心したのは卒業展が「終わりではなく社会に出る始まりの場」として演出されていたこと。来場者を迎える姿勢には「おもてなし」の気持ちを感じられました。ここで学んだ学生達がアーティストとして社会人として立派に育っていくものと期待しています。



株式会社 美術出版社
「デザインの現場」編集長 藤田孝子さん

卒業展では、デザイン工学部の展示を中心に廻らせてもらいました。生産デザイン学科では、バリエーションの豊富さやモックアップの完成度の高さに感心し、グラフィックデザインコースでは、壁や天井、エレベーターなどを駆使した展示方法に注目。実践を視野に入れたそれらの展示作品には迷いがなく、クオリティーの高さを感じました。山や川、そして雪、山形の豊かな自然に浄化され、デザインやアートと真摯に向き合う学生たちの姿を見たような気がします。

卒業プライズ2007

専門分野の先生方が選んだ学科の各賞の中でも、〈卒業プライズ2007〉は、その空間に入った瞬間に、作品を見た瞬間に、特に人を引きつけるような魅力的な作品に贈られる賞です。今年もゲスト2名を含む審査員がノミネート作品の中から5作品を選出。さらに、今年から赤坂教授の選考による論文系部門も設定され、計7作品に卒業プライズ2007が贈られました。それぞれの選考理由や今後の可能性などを紹介します。



「踊る身体」花野明奈
現：建築・環境デザイン学科
才能に驚いた。数十年前に一人の逸材。立ち方がしっかりしている。（酒井忠康 評）「その土地から“湧き出た建築”が存在し得るはずだ」という信念から出発しているところが素晴らしい。（宮島達男 評）



「form」先崎真琴
美術科洋画コース
パステル、水彩を使って何回も微妙な色を重ね合わせた、柔らかな密度のある画面。人体のイメージを説明的に具体的な形で描くのではなく、ショック的にボリュームをとらえて独自の世界を展開している作品であり、自己の内面をとらえた秀作です。（山田修平 評）



「maintain」中田朝乃
大学院芸術工学研究科日本画領域
彼女の作品は、特異な世界観とともに、ナイーブな筆致が魅力。植物と人物が溶け合うような世界は強度があり、感性が光る作品です。（宮島達男 評）



「いくつもの世界が混在する」望月梨絵
情報デザイン学科グラフィックデザインコース
とても自然。喜びにあふれている。見ていて楽しくなる天然グラフィックですね。（酒井忠康 評）ブックの完成度も非常に高く、若い才能が十分に引き出されていると感じました。（後藤繁雄 評）



「またぎ女房の生活史」菅野亜由美
歴史遺産学科
3年間かけてフィールドワークを行い、マタギという狩猟文化を、その女房に焦点をあててとても丹念に丁寧にまとめています。聞き取り調査に協力してくれた人々への感謝の気持ちが伝わってきます。（赤坂憲雄 評）



「悦楽オムニバス」藤村悦洋
大学院芸術工学研究科ビジュアルコミュニケーションデザイン領域
ショートナンセンス映像26話。たくさん作り込んでいる。飽くなく技術探究の成果が現れている作品。わざとヘタウマに仕上げているのいい。満場一致でプライズです。（後藤繁雄 評）



「古郷秀一作「限定と無限定」の保存修復」工藤美穂
美術史・文化財保存修復学科
分析・美術史を踏まえた分厚い論文。修論・博論レベルに達しています。芸工大に修復学科があることの意義を喜びたい。修復家に愛されて修復されることの幸せ、作品への愛にとっても感動しました。（赤坂憲雄 評）



展示会場を回る卒業プライズ審査員。

TUAD NEWS 28

目で見る芸工大「できごと」セクション

01



02

「高大連携」へ。長井工業高等学校と教育交流協定書を調印

本学は、教育交流を通して地元高校と関係をより深めていくため、山形県立長井工業高等学校と教育交流協定を締結し、「高大連携」を強く進めていくこととなりました。本学が高等学校と交流協定を締結するのは初めてとなります。2月17日、交流協定書の調印式および記者発表を行いました。



バス通学を強力バックアップ
仙台駅前～芸工大前に定期高速バス

現在、山交バスと宮城交通によって運行されている高速バス「仙台～上山線」が、路線改正をし、4月1日から「芸術工科大学前」を経由して運行することが決定しました。乗り換え不要で仙台駅から芸工大まで来ることが可能になります。ほか、山交ビル～芸工大線の運行など、バス通学がグンと便利になります。詳しくは、山交バスのHPで。
WEB：www.yamakobus.co.jp

04



分野を越えた合同作品展
卒業生による『サクラマス展 2008』

毎年恒例となった卒業生クリエイターの有志による合同作品展。今年は3月9日～26日に、分野を越えた63名の作家が参加し、山形市七日町の山形デザインハウスにて開催しました。
WEB：www.sakuramasu.jp

05

平成20年度東北芸術工科大学
大学院特待奨学生Ⅱで人材育成

東北芸術工科大学大学院特待奨学金制度Ⅱは、大学院をより高度な研究の場として、ますます活発にしていくなめの人材を育成することを目的として、大学院1年生に対して実施する奨学金制度。特待奨学生Ⅱ審査会で審査の結果、平成20年度特待奨学生Ⅱが下記のとおり決定しました。特待奨学生Ⅱ-B（大学院修士2年次の授業料半額免除）：芸術文化専攻東北文化領域 黒沼雄太／芸術文化専攻日本画領域 一條好江／芸術文化専攻洋画領域 大塚麻美／芸術文化専攻洋画領域 古木美智子／芸術文化専攻ことも芸術教育領域 林こずえ／デザイン工学専攻生産デザイン領域 山田慎一郎／デザイン工学専攻生産デザイン領域 小杉優佳／デザイン工学専攻環境デザイン領域 金子裕司



グラフィックデザイン4年間の成果
仙台で卒業制作展『コマンド+G』

3月14日～18日、情報デザイン学科グラフィックデザインコースの卒業制作展を、せんだいメディアテーク5Fで開催しました。

07

魅力的なケータイソフトを企画提案
ドコモカップ東北で準グランプリ

1月26日に開催された第7回ドコモカップ東北最終審査会で、メディアコンテンツデザイン学科ゲームデザインコース4年の学生チームが準グランプリを受賞しました。これはドコモの携帯電話用ソフトウェア「iアプリ」を企画・制作し、完成度や提案内容を競うコンペ。1次審査で絞られた30チームの中から選出されました。
作品名：Caramelise。チーム：CORUCORU（曾根あゆみ／吉田愛美／坂本美菜）
QRコードで、受賞作品のゲームを無料でダウンロードできます。
WEB：www.docomocup.com/html/foma/result_final.html



全国レベルの活躍を表彰
「東北芸術工科大学学長奨励賞」

東北芸術工科大学学長奨励賞は、全国大会等で優秀な成績を取ったり、社会的に貢献し、顕著な社会活動を行ったなどの秀でた学生または団体を表彰する制度です。このたび応募された個人または団体の中から審査した結果、下記のとおり受賞者を決定しました。
学長奨励賞奨励金：個人（5万円）、団体（10万円）（東北芸術工科大学学長奨励賞受賞決定者）
個人の部：栗野幸智恵（プロダクトデザイン学科2年 北京パラリンピック全日本代表メンバー）／津田絵里奈（プロダクトデザイン学科3年 立川ブランドカラーコーディネートコンテストグランプリ受賞）／田名綱一貴（修士2年 学生CGコンテスト作品入選）／川瀬和幸（修士修了生 旭化成審査員特別賞）団体の部：3団体 なべ（代表 遠辺恵太）2年連続ドコモカップ東北グランプリ受賞／乗田朋子ほか（代表 乗田朋子）学生CGコンテスト最終ノミネート作品入選、デジタルアート大賞優秀賞など／Link（代表 川瀬和幸）海外デザインメッセ出演、東京デザイナーズウィーク新人たち賞受賞など。

11



卒業生の活躍が喜ばしい
「公募ふるさと風景展」で大賞に輝く

美術科洋画コースの卒業生 斎藤直美さんの作品「もういいかい」が、13回目となる喜多市美術館主催の公募ふるさと風景展で大賞を受賞。応募総数188点の中から選出。作品は3月1日～23日、喜多市美術館で展示されました。

12

卒業生、在学生、栄えある多数入選
『高知国際版画トリエンナーレ』

世界各国の版画制作者がエントリーする第7回高知国際版画トリエンナーレに、美術科洋画コースの卒業生、在学生が入選しました。作品は、3月15日～4月20日の期間、高知県の町の町の町紙の博物館にて展示されています。
入選：佐藤妙子（2005年院修了）／大山貴也（2007年院修了）／三浦弘恵（大学院2年）／佐藤賢奈子（2007年卒）／李美圭（4年）／野瀬晶樹（3年）。主催：高知県手書きと紙協同組合内土佐和紙国際化実行委員会



くらし情報誌やデザイン専門誌が
「ヤマガタ蔵プロジェクト」を紹介

本学学生が中心となって活動しているヤマガタ蔵プロジェクトが、朝日新聞くらし情報誌朝日ウィルと、デザイン専門誌AXISにて紹介されました。◎朝日新聞くらし情報誌朝日ウィル 896（2007年12月）：若い力によって輝きを取り戻した蔵が山形の町に新しい風を吹き込む。
◎AXIS 131号（2008年2月）：東北芸術工科大学と山形市民の蔵プロジェクト。

13



坂東准教授と卒業生のコラボで
食育の絵本「ぺこぺこべろり」発行

情報デザイン学科グラフィックデザインコースの坂東准教授と卒業生の多田和絵さんが原作・イラストを担当し、食育の絵本「ぺこぺこべろり」と大人向けの「食育ポイントブック」を制作しました。山形県が中心となった、有識者と保育関係者等8名からなる食育読本作成委員会からの依頼によるもので、13,000部を制作、県内の幼稚園、保育園、公立図書館、小学校等に配布しました。



東北文化への貢献。赤坂憲雄大学院長が
『芸術選奨大臣賞』を受賞

2月29日、赤坂憲雄東北文化研究センター所長・大学院長が、2007年度芸術選奨大臣賞を受賞しました。芸術選奨は、文化庁がその年に芸術分野で優れた業績を上げた人へ贈られる賞です。贈呈式は10月10日、ホテルニューオータニで行われます。また、第57回河北文化賞（2007年度）も受賞しました。東北地方の学術、芸術、体育、産業、社会活動の各分野から推薦された候補者の中から、東北学の構築と実践による東北文化への功績を評価され受賞しました。



『卒業設計日本一決定戦』で
卒展プライズ作品が特別賞を受賞

せんだいメディアテークで開催された建築系の卒業設計・制作を競う「せんだいデザインリーグ2008卒業設計日本一決定戦」で、紙面でも紹介していた建築・環境デザイン学科の花野明奈さんの作品が、498点の出品作品の中からファイナリストに残り、特別賞（実質総合4位）を受賞しました。

1月16日、東北芸術工科大学は、韓国の「韓国伝統文化学校（国立大学）」と、大学教育の発展と芸術文化運動を促進するため、大学間交流協定を締結しました。東北芸術工科大学はほかに、韓国有数の歴史と伝統を持つ「延世大学校（私立4年制大学）」と交流協定を結んでおり、さらに2008年度は「梨花女子大学校」とも交流協定を締結する予定です。韓国伝統文化学校は、2000年度、韓国の文化財庁が韓国扶余郡（百濟の古都扶余の地）に開設した4年制の国立大学です。

日本画、洋画、彫刻、工芸の有志学生が
美術科作品展「こそ展」を開催

3月21日～26日、せんだいメディアテーク5Fギャラリーb室（仙台市青葉区）にて、美術科日本画、洋画、彫刻、工芸の有志学生17人による作品展を開催しました。



上野の森で一足お先に。
日本画コースの卒業／修了制作展

2月1日～6日、上野の森美術館で山形の2007年度東北芸術工科大学卒業／修了研究・制作展より一足先に、美術科日本画コースと大学院日本画専攻による制作展を開催しました。



高校生のための芸術大学体験
スプリングセミナー

3月25日、高校生新2年生を対象にしたデッサン講習会を開催しました。当日は多くの参加者にお越し頂き、表現力向上につながるアドバイスや持込み作品の講評、大学生生活についての質疑など充実した体験になったようです。



『卒業設計日本一決定戦』で
卒展プライズ作品が特別賞を受賞

せんだいメディアテークで開催された建築系の卒業設計・制作を競う「せんだいデザインリーグ2008卒業設計日本一決定戦」で、紙面でも紹介していた建築・環境デザイン学科の花野明奈さんの作品が、498点の出品作品の中からファイナリストに残り、特別賞（実質総合4位）を受賞しました。



卒業生が著書「デザインの深読み」の
イラストレーションを担当する栄誉

情報デザイン学科グラフィックデザインコースの卒業生、日塔なつ美さんが、坂井直樹氏の著書「デザインの深読み」のイラストレーションを担当しました。紙面の約半分がイラストで構成されたデザインコラム集です。
著者：坂井直樹、発行：トランスワールドジャパン株式会社、2007年12月22日初版発行／1,600円

22

今後も独創性に期待。卒業生が
『岡本太郎現代芸術賞』に入選

美術科彫刻コース卒業生の竹内尚子さんが、第11回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）に入選しました。受賞作品は、2月9日～4月6日の期間、川崎市岡本太郎美術館にて展示されました。この賞は、岡本太郎の精神を継承し、旧来の慣習や規範にとらわれず、自由な視点と発想で創作活動を行う作家による、優れた作品のために創設された賞です。
川崎岡本太郎美術館 WEB：www.taromuseum.jp/exhibition/current.html

23



子どもとデザインをテーマに
『デザイン学会第1支部大会』を開催

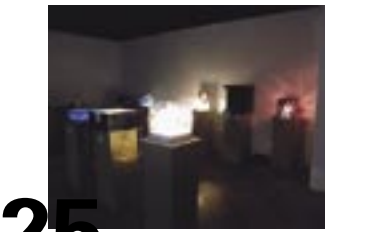
2007年12月22日、本学にて『第2回日本デザイン学会第1支部大会』を開催しました。今回の大会テーマは「子どもとデザイン」で、午後は13時より、和久洋三氏を講師に迎え、基調講演をいただき、「デザインの初等教育を考える」というテーマでシンポジウムを開催しました。
主催：日本デザイン学会第1支部、共催：東北芸術工科大学／東北工業大学／日本デザイン学会

24



チャイルドライン新キャラ公募で
2008作品の上位4点に選ばれ優秀賞

情報デザイン学科グラフィックデザインコース3年の窪田梨絵さんの作品「チャイルドライン・オン」が、チャイルドライン新キャラクター公募にて優秀賞を受賞。2008年の作品の中から選ばれた上位4点のうちの一つ。3月22日、リッツカールトン東京にて授賞式が行われました。チャイルドライン（子ども電話）は18歳までの子どもがかけられる、子どものための電話。悩みや悲しみや寂しさを電話で受けとめています。



プロダクトデザイン学科の精鋭が
『光・源・展の学生展』に出品

1月8日～12日、アクセスギャラリー（東京都港区六本木）で開催された「あかりメッセージ10周年記念 光・源・展の学生展」に学内選考で選ばれた3名の2作品を出品しました。プロダクトデザイン学科の卒業生の横城徳守さん、小柏佑太さんの共同制作の作品と、菊池匠さん（3年）の作品。この展示には、各谷二プロダクトデザイン学科教授も出品しました。WEB：www.higashi.jpda.or.jp/lcd

新人写真家の登竜門的なコンテスト
『写真新世紀』の佳作に入賞

情報デザイン学科映像コース卒業生の西澤諭志さんの作品「絶景」が、写真新世紀2007で佳作に入賞しました。インテリアのディティールを撮影した、1,180×840mmの15点の写真作品です。写真新世紀はキヤノンが1991年から新人写真家の発掘・支援を目的に開始したコンテスト。既に国内外で活躍する優秀な写真家を多数輩出しています。

26



山形で育まれた感覚の評価は？
卒業／修了研究・制作展 [東京展]

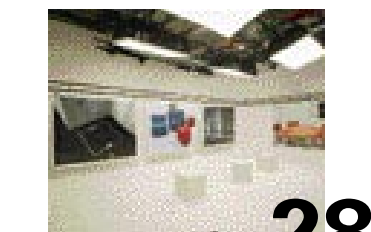
3月26日～4月3日、東京都美術館にて美術科（日本画・洋画・彫刻・工芸）の東北芸術工科大学卒業／修了研究・制作展 [東京展] を開催しました。山形の豊かな自然と雄大な大地から生まれた、若き表現者たちの新鮮な感覚と次代へ向けての真摯な制作姿勢、そして可能性を、東京の方にも感じて頂けたのではないのでしょうか。3月26日には「美術の広がりと表現」と題した福永治氏（キュレーター）×和太守卓良氏（陶芸家／本学芸術学部美術科長）によるギャラリートークも開催しました。



27

海外の大学では5校目
『韓国芸術総合学校』と交流協定を締結

韓国唯一の国立芸術大学である韓国芸術総合学校（ソウル市／WEB：www.knu.ac.kr）と「芸術」と「平和」を結びつける芸術文化運動を推進していくため、包括的な交流協定を締結することで合意。その交流協定書の調印式と記者発表を2月23日、本学にて行いました。韓国芸術総合学校の教授であるイ・チャンドン監督が姉妹校の京都造形芸術大学へ来学したことをきっかけに、黄総長をはじめとする韓国芸術総合学校の関係者が本学の理念に共感し、芸術文化交流をより強いものとしたという思いで、今回の調印となりました。本学が海外の大学と交流協定を締結するのは5校目。1：スウェーデン国立美術デザイン大学（コンストファック）1998年10月／2：デンマーク王立アカデミー建築スクール2002年3月／3：延世（ヨンセ）大学校（韓国）2007年9月／4：韓国伝統文化学校2008年1月／5：韓国芸術総合学校2008年2月



新人写真家の登竜門的なコンテスト
『写真新世紀』の佳作に入賞

情報デザイン学科映像コース卒業生の西澤諭志さんの作品「絶景」が、写真新世紀2007で佳作に入賞しました。インテリアのディティールを撮影した、1,180×840mmの15点の写真作品です。写真新世紀はキヤノンが1991年から新人写真家の発掘・支援を目的に開始したコンテスト。既に国内外で活躍する優秀な写真家を多数輩出しています。

28

OPEN GALLERY

芸工大

*

YOU

TUAD INNOVATION 2009

2009年4月より学科・コースを設置し、学部編成が新しくなります。

芸術学部、デザイン工学部に
新しい学科・コースを設置し、
より身近な大学へ。

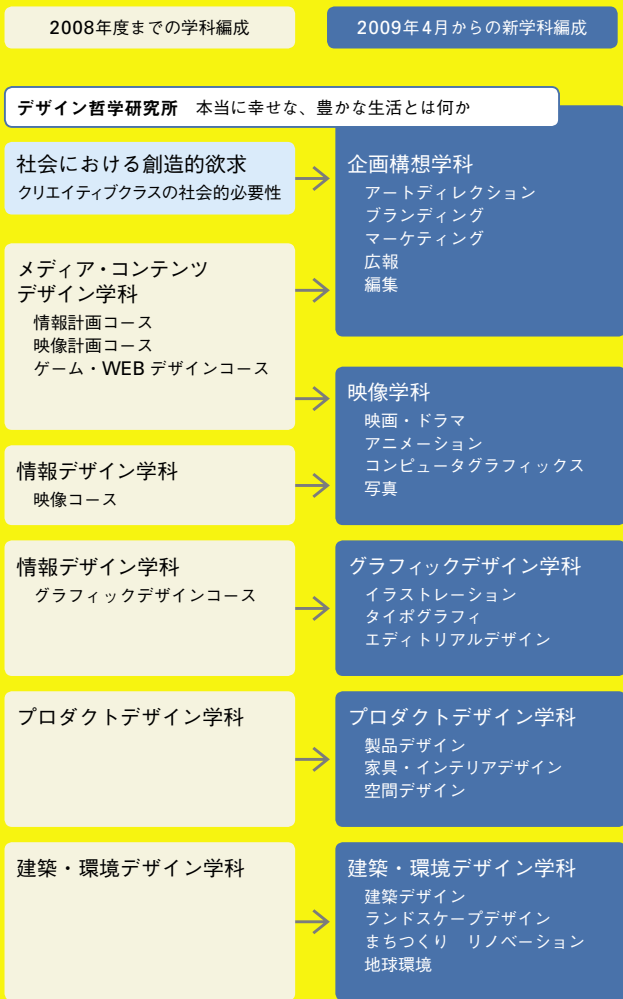
東北芸術工科大学は、今後も魅力的な大学であり続けるために、本学の建学・理念をさらに具体的に教育の上で体现させ、いかなる人間を育て社会へ貢献するのかを明解に指し示すために、2009年4月、以下のとおり芸術学部・デザイン工学部の学科再編を図ります。

デザイン工学部では、学科体制を見直すとともに、放送作家の小山薫堂氏を教授に迎えた新しい学科「企画構想学科」のほか、「グラフィックデザイン学科」「映像学科」が誕生します。企業ブランドや映画産業に繋がる分野の強化で、東北・山形における産業の活性化にも寄与するものと考えています。

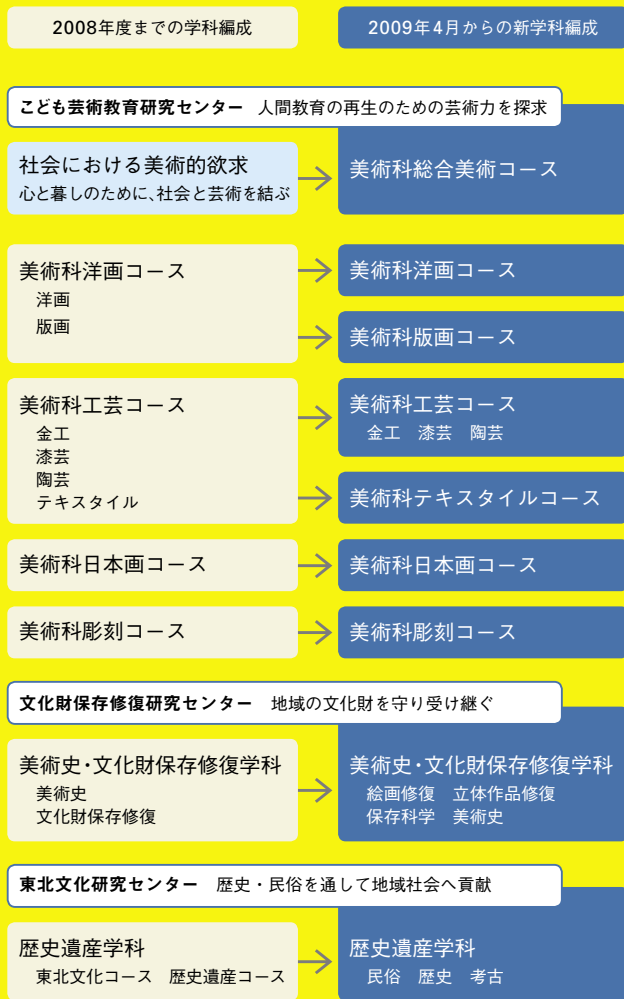
さらに芸術学部では、附置機関との連携を強めながら、人材育成・教育環境の一層の充実を図るとともに、新しいコース「美術科総合美術コース」「美術科版画コース」「美術科テキスタイルコース」が誕生します。「美術科総合美術コース」は文化意識の向上や、芸術とふれあう機会を地域へ提供していくこととなります。

詳しくは大学ホームページへ。
WEB : www.tuad.ac.jp

デザイン工学部 DESIGN



芸術学部 ART



CLICK HERE!

WEBでさらにg*gツウになろう。

本誌g*gでご覧いただいた内容は、WEBでもご紹介しています。さらに、WEBならではのお楽しみもいっぱい。本誌ではご紹介しきれなかった作品やエピソードなどをプラスα編集。ご期待ください。また、読者のみなさんにご参加いただくコーナーへのお申し込み・お問い合わせ窓口にもなっています。下記のWEBサイトをクリック&チェックしてみてください。

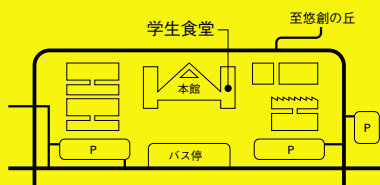
WEB : <http://gs.tuad.ac.jp/gg>

WELCOME TO TUAD

開かれた芸工大への扉。



1. 学食は食事をするだけでなく、学生同士のコミュニケーションの場としても大切な存在。2. 券売機で買った食券は、半券をちぎってカウンターに。混んでいる時は「ください!」と声を出して。3. 肉や魚のメイン料理とご飯、スープ、サラダが付くランチメニューは400円。4. 単品で蕎麦やラーメン、カレーや丼物等もあります。



学生食堂

本学の学生食堂は、学生に限らず、一般の方も利用できるオープンな食堂です。とにかくおいしい! 安い! と大好評です。もはや学生食堂を超えた学食?! かもしれません。それもそのはず、シェフたちは山形市内のホテルで経験を積んできた、こだわりの持ったプロ。

メニューは定番のカレー、丼物、麺類のほか、毎日3種類の日替わりランチがあります。フレンチを専門としてきたシェフならではのメニューには、時々珍しい食材が使われていて、盛り付けも素敵です。シェフは毎朝、市場に仕入れにいった時に「今が旬! これうまい!」と思った食材をもとにその場でメニューを決めています。そのほか、学生の食生活を気遣い、お浸しや煮物、和え物やサラダといった一品料理も多数用意しています。それは、学生に健康でいて欲しいという思いから。

キャンパスを散歩しながら、水辺の能舞台が見える学生食堂へいらっしやいませんか。おいしさや価格のリーズナブルさに驚くこと間違いなしです。

<http://gs.tuad.ac.jp/gg/>

OPEN GALLERY

EVENT SCHEDULE WEB

2/16-5/11

副学長のアーティスト力を実感する

「Art in You」という考え方を紹介すると共に、アートの持つ可能性を提示する個展。「生、他者、自己」をリアルに感じ、歴史や環境など、様々な局面における平和についての想像力を喚起する空間が生まれます。

『宮島達男 Art in You』

会期:2月16日(土)ー5月11日(日)

会場:水戸芸術館現代美術ギャラリー (茨城県水戸市五軒町)



4/1-7/31

高校生ならではの発想で、めざせ優勝!

『第15回全国高等学校デザイン選手権大会応募登録開始』

4月1日(火)から応募登録を受付開始します。登録締切は7月31日(木)までです。決勝大会は、10月26日(日)に開催します。

高校生が3名で1チームを組み、社会や身近な生活の中から問題点を見つけ出し、その解決策を提案するものです。A2判パネル4枚を使って提案し、一次審査によって選抜された12チームが決勝大会に進出し、公開プレゼンテーションに挑みます。



4/7-27

ジャンルを超えた OB パワーの集結!

本学卒業生の有志が、平面、立体などジャンルにとらわれない企画展を開催します。

『DROPS』

会期:4月7日(月)ー27日(日)

会場:birde space (宮城県塩竈市港町)

参加アーティスト:阿部貴博(グラフィックデザインコース11期生)／伊瀬谷優(日本画コース9期生)／氏家大(大学院生産デザイン領域修了)／齊藤圭介(大学院ビジュアルコミュニケーション・デザイン領域修了)／小林幸(グラフィックデザインコース9期生)／佐藤瑞佳(グラフィックデザインコース10期生)／中田雄一(美術科工芸コース10期生)／柳橋豊孝(グラフィックデザインコース9期生)、キュレーター:亀山静花(プロダクトデザイン学科10期生)



4/13

最上三十三観音、節目の年に考える

最上三十三観音は今年が12年に1度の子年ご開帳の年。この節目に日本人と宗教や信仰の関わりを根源から考え、現代における最上三十三観音の意義を明らかにします。

『シンポジウム日本人の祈りと心(仮)』

日時:4月13日(日)13:30ー 入場無料

会場:本館201教室

講師:山折哲雄(宗教学者・東北文化研究センター顧問)／千歳栄(株式会社千歳建設代表取締役会長・東北文化研究センター運営委員長)／菊地和博(東北文化研究センター准教授)／檜山孝俊住職(最上三十三観音札所別当会会長補佐)
主催:山形新聞社、本学東北文化研究センター

4/18

心地いい、知性や感性にもいい時間

お茶を飲みつつ、デザインの本質を語るトークイベントです。

『デザインカフェ』

日時:4月18日(金)17:40ー19:40 入場無料

テーマ:山形のつくり手とデザイン(仮)

会場:本館407講義室

ゲスト:秋田道夫(プロダクトデザイナー)／ナガオカケンメイ(デザイナー)／小野里奈(デザイナー、本学卒業生)／長谷川光昭(鋳物職人、本学卒業生)
進行:竹内昌義(建築・環境デザイン学科准教授、デザイン哲学研究所共同研究員)

4/20-5/18

洋画コース副手の作品、ドイツでお披露

美術科洋画コースの卒業生で現副手の大浦和代さんが日本とドイツのアーティスト10名によるグループ展「Schon-Schon Multimedia art project with artists from Japan and Germany」に出品します。

『Schon-Schon』

会期:4月20日(日)ー5月18日(日)

会場:Kunsthalle Faust／Hannover Messeの2会場(ドイツ・ハノーバー)

主催:ハノーバー市役所文化課、Kunsthalle Faust

WEB:www.hannovermesse.de/homepage_e



5/7-17

初々しさと成長がせめぎ合う

プロダクトデザイン学科2年生による展示です。入学した時の最初の気持ち、一歩目の気持ちを作品に表現しました。

『はじめのいっぱ』

日時:5月7日(水)ー17日(土)10:00ー17:00

会場:本館1Fホール

5/12-17

女の子がテーマ、独特ドキドキの世界へ

美術科洋画コースの学生による、女の子をテーマにした展示。女の子の中にある夢と、現実との違いや共通点などを感じてください。

『プールの時間は見学で』

日時:5月12日(月)ー17日(土)10:00ー17:00

会場:本館1Fホール

5/17

ご父兄に安心と期待をお届けするために

『20年度保護者会山形会場』

日時:5月17日(土)午後

会場:東北芸術工科大学

5/19-24

展示のおもしろさにもコウゴキタイ

美術科洋画コース2年生によるグループ展で、平面作品を主に展示し、会場を利用した面白い展示を展開します。

『コウコウテン』

日時:5月19日(月)ー24日(土)10:00ー17:00

会場:本館1Fホール

5/19-31

日常の中に見つけたニューコンセプト

プロダクトデザイン学科3年生が、普段見ているものや現象などをベースに、新たなデザインの可能性を探ります。

『daily life』

日時:5月19日(月)ー31日(土)10:00ー17:00

会場:本館1Fホール

5/26-30

その明かりや光は何を照らし出す

プロダクトデザイン学科3年生が、演習でデザインした照明器具を展示します。制作過程も同時に紹介します。

『たにてん』

日時:5月26日(月)ー30日(金)10:00ー17:00

会場:本館1Fホール

5/26-31

未完成の魅力、迫力の中にある潔さ

洋画コース2年生の、油彩、ドローイング、写真など、荒削りながら個性が十分に発揮された作品をご覧ください。

『火の祭り』

日時:5月26日(月)ー31日(土)10:00ー17:00

会場:本館1Fホール

6/1

いち早く、芸工大を知ろう、感じよう

個別の入試相談や合格者参考作品の展示はもちろん、各学科・コースの施設・設備を公開するほか、社会で活躍している卒業生との交流などさまざまな企画を用意し、皆さんの参加をお待ちしています。予約不要、入退場自由です。高校1・2年生、保護者の皆さまもぜひご参加ください。詳しくは追ってWEBにてご案内します。

『オープンキャンパス1開催』

日時:6月1日(日)10:00ー16:00(予定)

会場:東北芸術工科大学



6/6-13

みんな空間の中、建築の中で生きている

建築・環境デザイン学科の4年生が、建築をもっと身近に感じてもらうために、十数点の建築模型を展示します。

『建築模型展』

日時:6月6日(金)ー13日(金)10:00ー17:00

会場:本館1Fホール



6/16-28

森林浴するように絵画浴しませんか

美術科日本画コース2年生による、「森」をテーマにした作品展です。日々変化する森のように、展示空間も演出します。

『ゆかりの森』

日時:6月16日(月)ー28日(土)10:00ー17:00

会場:本館1Fホール

6/24-28

三者三様の世界、見方だって十人十色

全く異なった方向性を探り始めた3人の美術科洋画コース3年生が、展示を行います。

『ユガノユウシテン』

日時:6月24日(火)ー28日(土)10:00ー17:00

会場:本館1Fホール

6/24-29

見たまま感じたまま、絵画の原点へ

美術科コースの学生たちが、絵画の原点でもある具象絵画の位置を探る作品展を開催します。油彩、版画、日本画など分野を超えた展示となります。

『具象を見つめ直す会』

日時:6月24日(火)ー29日(日)10:00ー17:00

会場:悠創館

—「あなたの作品、寸評室」出品者募集!—

あなたの作品も、専門の先生の寸評を受けてみませんか。絵画、陶芸、工芸、CG作品など何でも結構です。芸工大が誇る層の厚い先生達がやさしき的確に評価し、今後につながるアドバイスをいたします。ご希望の方は、1.住所、2.氏名、3.生年月日、4.職業、5.平日の日中に連絡が取れる連絡先と併せて、6.作品のジャンル、7.大きさや重さ、8.概要を以下の窓口までご連絡ください。

FAX:023-627-2185

E-mail:hello-gg@aga.tuad.ac.jp

※申し込みを複数頂戴した場合には、大変勝手ながらこちらにて選考をさせていただきます。結果は、取材希望の連絡をもって発表にかえさせていただきます。ご連絡頂いた情報は、本目的以外には使用致しません。

— 在学生、卒業生の皆さんへ —

東北芸術工科大学の広報誌「g*g」では、イベントなどの告知情報をお待ちしております。次回発行日は7月10日を予定しています。情報掲載をご希望される方は、6月10日までに広報担当までメールなどで情報をお寄せください。また、住所などが変わりましたら、東北芸術工科大学学生課までご連絡ください。